

津波早期検知への取り組み

津波をいち早く発見し、 防災・減災に役立てます

背景・目的

- 大規模な津波の発生を想定し、防災・減災の観点から、多様な観測技術を組み合わせ、津波を早期に検知し、浜岡原子力発電所での到達時刻や高さ、収束時間を予測する「津波監視システム」の開発に取り組んでいます。

特長

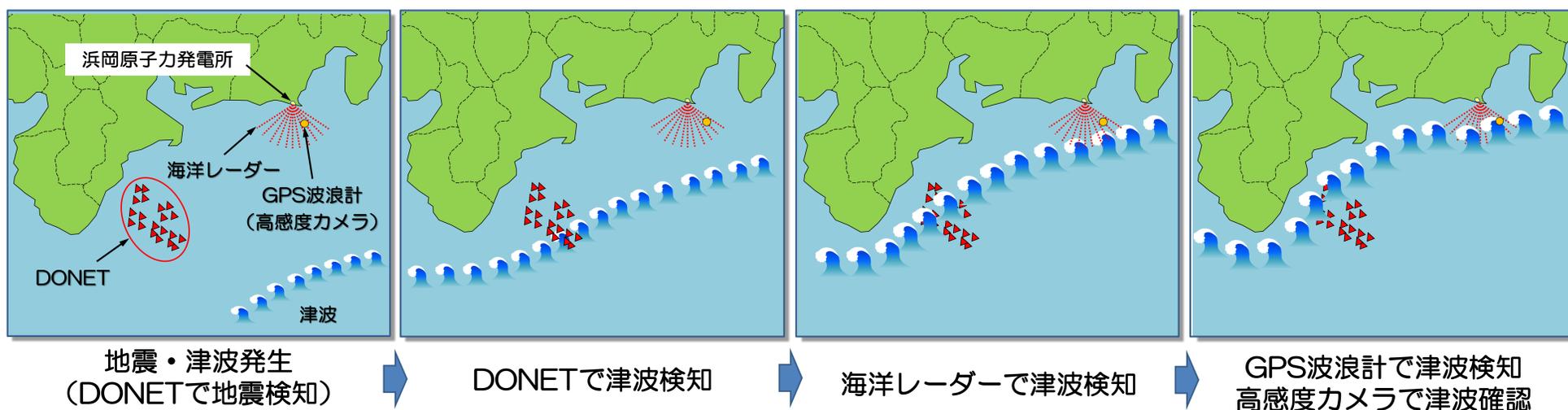
- DONET、GPS波浪計、海洋レーダー、高感度カメラなど沖合での観測データを活用
- 浜岡原子力発電所に到達する10分以上前に津波を検知
- 検知した津波が到達する時刻、到達した時の高さを即時に予測
- 繰り返し押し寄せる津波の高さが落ち着く（収束する）時間を予測



用途

- 作業で開放された開口部を閉止する時間を確保できる
- 作業員が安全な場所まで退避する時間を確保できる
- 津波襲来後の点検・復旧作業開始時間の目安となる

観測技術から得られる情報に基づく津波検知フローの一例（震源域：南海トラフ沿い）



開発者の ひとこと

社外機関のデータを授受できるよう交渉し、また、自社独自の観測も加えることにより信頼性を向上させるよう工夫しました。これら多様な津波観測情報を用いた津波予測を自動で行う“画期的なシステム”を実現させるよう取り組んでいます。